第 146 号

農業かなざわ

編集発行　金沢市農業委員会　電話076-220-2223

金沢市農業委員会憲章

みのり豊かな金沢の土に親しむわたくしたちは、このかけがえのない自然を守り魅力ある農業を築くため、誇りと責任ある行動に努めます。

1　農地をまもり　自然と調和する活力あるまちづくりをめざします
1　意欲ある担い手をそだて　農業経営の合理化をはかります
1　生産技術をたかめ　農地の規模拡大と有効利用をすすめます
1　研究と情報の輪をつなげ　暮らしと福祉の向上につとめます
1　時代にこたえ　健康で個性豊かな金沢の食生活をひろめます

平成３年１月28日制定

加賀野菜「加賀れんこん」の鍬掘りの技術
～「農の匠」　横井禮一さん～

長年にわたり加賀野菜の「加賀れんこん」栽培に取り組み、優れた栽培技術を持つ横井禮一さんが「農の匠」として金沢市から認定されました。

横井さんは才田地区で水稲を栽培する兼業農家でしたが、32歳の時、水稲の規模拡大のため河北潟干拓地への入植を希望し、当時勤めていた会社を退職のうえ、専業農家になる決意をしました。農業を生涯の仕事にするなら「一度は世界一の農業を見てみたい」と、石川県農業視察団に加わり米国カリフォルニア州を視察。そこで見たスケールの大きさに感動し、ますます農業への意欲が高まったそうです。

しかし、水稲の規模拡大のため河北潟干拓地の農地を購入したにも関わらず、その後、干拓地の土地利用計画は水田から畑へと変更となってしまいました。営農計画の見直しを迫られ困惑するしかなかった横井さんでしたが、小坂地区のれんこん部会から「一緒にレンコン作らんか」との誘いを受けたことがきっかけとなり、横井さんのレンコン栽培が始まりました。

初めの3年間は仲間と切磋琢磨しながら共同で作業を行いました。当時の収穫方法は鍬掘りが主流で、3年目から掘り取り作業を経験させてもらい掘り方を習得したとのことですが、鍬掘りにはコツがあり、力任せに掘るとレンコンが傷ついてしまうため、体のしなりをうまく使って収穫するそうです。

その後、茨城県で水掘りによる収穫方法が導入されると、金沢からも視察に行き、そのほとんどの人が鍬掘りから水掘りに移行していきました。でも、真冬の水掘りは、水面に氷が張るなか腰まで水につかって作業するため身体が冷えて負担が大きいとのことです。レンコンの収穫は8月から翌年4月まで続きますが、横井さんは8月から3月初旬までは鍬掘り、その後2か月間は水掘りと掘り方を分けています。「寒い時に鍬で掘ると体が暖かくなるし、天地返しの効果もある。」と鍬掘りの良さを教えてくれました。また、鍬掘りの泥付きレンコンは収穫後の痛みが少ないことや、ほくほくした触感が魅力で、特に近江町市場からは「鍬掘りれんこん」としての評価が高く、注文も多いそうです。

横井ご夫妻と収穫後の泥付きレンコン

現在、横井ご夫妻と息子さんとで、河北潟干拓地でレンコンを2.4ha、才田地区で水稲を1.1ha栽培していますが、水稲はもっと面積を増やすことができると意欲的に語っていました。

横井さんを訪ねたのは、レンコン農家には農繁期にあたる正月早々1月5日でしたが、快く取材を受け入れてくれ、79歳とは思えない若々しく力強い口調でお話していました。「農業を長続きさせるためには、人と競わないこと、お酒を控えること」だそうです。農業に大変意欲的な横井さん。これからも品質の高いレンコン栽培に励んでいただき、匠の技術を次世代に継承されますよう願っています。

（取材　広報編集委員　伴 美代子、松平 裕喜、菊知 亮）

左から　村山市長、横井さん

祝 金沢市農林漁業功労賞

令和4年11月7日、農の匠認定証とともに金沢市農林漁業功労賞の贈呈式がありました。

農林漁業功労賞は、本市の農林漁業に顕著な功績のあった方に贈られる最も高位な賞であり、農業分野で受賞された3名の方々をご紹介します。

打木町　中林　宣洋さん

中林さんは、打木町の園芸農家の長男として生まれ、石川県農業短期大学を卒業後、農業機械の販売会社に就職しました。仕事で接する兼業農家の方はすべて稲作農家で、園芸農家では兼業は難しく、同じ苦労をするなら専業農家の方がやりがいがあると思い、21歳の時に専業農家になりました。

就農当初はスイカ、ダイコン、軟弱野菜が主で、現在の主要品目の一つである「加賀太きゅうり」の栽培はわずかでした。加賀太きゅうりは加賀野菜の一つで、中林さんの就農後に同町の松本惲氏が中心となり、手選別による個選から、選果機を導入し共販組織を設立したことによって、地元市場だけだった販路が大阪市場にも広がったそうです。

また、砂丘地域はスイカ、ダイコンの産地ですが、当時は北部の粟崎地区と南部の安原地区で別々に出荷されていたそうです。それを一本化するため、農協からの要請で金沢砂丘地部会長に就任した中林さんは、農協と両地区とのパイプ役となり出荷の一本化に向けスタートしました。

スイカの役員は非常に忙しく、役員となった年は出荷時期に自分の畑作業ができるのは早朝と休市前の土曜日だけで、一日のほとんどが集出荷場でのその日の反省や翌日の段取りなどに追われるため、仕事の両立がとても大変だったとのことです。

現在は、奥様と息子さんご夫婦の4人で加賀太きゅうり、金沢そだちのスイカ、ダイコン、トマトを栽培しています。農業の厳しさが身に染みている中林さんにとって、息子さんが農業を継ぐことには嬉しい反面、不安もあったそう

後列：左から　安田さん、中林さん、中村さん
前列：左から　橋田さん、村山市長、大杉さん

ですが、息子さんの熱意と意気込みに心を打たれたとのことでした。

今回の受賞について伺うと、スイカ部会長の時に売り上げが思うように伸びず苦労していた際、先輩から「神様はお前だったら必ず乗り越えられるはずだとこの試練を与えている。人として一回り成長できるチャンスだと思って頑張れ！」と言われたことが励みになったそうで、「自分には身に余る賞です。周りの先輩方、地域の方々の厳しい言葉、温かい言葉で成長することができ、強くなることができました。その結果が金沢市に認められたのかな」と笑顔で語っていました。

海岸砂防協会の副会長として、砂丘地域における生活や農業に非常に重要な役割を果たしている防風林の維持等にも尽力している中林さん。今後も地域のため、農業のために益々ご活躍されますようご祈念いたします。

（取材　広報編集委員　西村 健、五坊 隆一）

中林　宣洋さん

袋畠町　中村　真一さん

中村さんは、石川県農業短期大学在学中のとき父親が病気になったため、卒業と同時に就農しました。

昭和53年に、金沢市稲作請負部会に入り、研修や交流を通して良き仲間との出会いとともに、稲作規模を拡大していきました。「独身時代は、作業の依頼主にお昼ご飯をご馳走になり、とても有難かった。今思えば迷惑もかけたものだ。」と当時のことを懐かしく語っていました。その後、平成2年に、二塚農作業受託組合ライスセンターを設立し、組合長として二塚地区内外の稲作作業を請け負い、地域農業の振興に尽力してきました。

昭和55年には、河北潟干拓地に入植し営農規模を拡大。現在、奥様と息子さんの3人で、水稲を約20ha、大麦と大豆をそれぞれ約15ha栽培しています。干拓地での営農は、大麦では冬期のカモ被害、大豆では、天候による発芽不良や干ばつ、連作障害、雑草対策など、苦労が絶えないとのことです。

また、中村さんは、金沢市農業委員会の農政小委員会副委員長のほか、河北潟干拓地土地改良区や石川県農業共済組合の理事も務めるなど農地の集積や生産者の所得向上に活躍しています。これからも地域農業のリーダーとして力を発揮していただきたいと思います。

（取材　広報編集委員　藤田 礼子、伴 美代子）

下安原町　安田　伸一さん

安田さんは、実家が農家であったため、自分が後を継ぐことについては、いつしか当然のように考えていたそうです。高校卒業後、兵庫県明石市の農業試験場で実習生として1年半勉強した後、金沢に戻り、中央卸売市場の仲買人を1年半勤め、25歳の時に実家の農業を継ぎました。現在は、下安原町において奥様と2人のパートとともに、源助だいこん、金時草、スイカ、ダイコンの他、メロンやコカブの栽培に取り組んでいます。

スイカはハウスと露地で栽培しており、6月中旬から7月末までなるべく長期間収穫できるよう、定植は8～9回に分けて行っているそうです。また、保温のためのトンネルについても被覆資材の大きさを定植時期に応じて変えるなどの工夫をしています。スイカ栽培は2月の種まきから始まりますが、収穫までは苗が枯れやしないかなど1日たりとも気が抜けないとのことでした。スイカの収穫が終わるとすぐに後作のダイコン栽培のため圃場の準備が始まります。ダイコンは露地では青首ダイコン、ハウスでは源助だいこんと品種を分けて栽培しています。青首ダイコンと源助だいこんでは出荷箱が異るほか、出荷時の葉の長さも違うことから、出荷時期が重ならないように栽培しているとのことです。

金時草は中山間地域が主な産地ですが、冬の

間は寒くて収穫できません。その端境期に安田さんを含む下安原町の生産者4人が平成25年から冬期のハウス栽培に取り組んでいます。その他、ハウスではメロンの後にカブの栽培を行うなど、1年を通して作業が続きます。

生産部会の役員の時は、地元の市場はもちろん、京都や大阪など県外の市場にもよく出向き、市場関係者との繋がりを強めるとともに、仲買人やバイヤー相手に交渉を重ね、生産者の所得向上のために尽力しました。生産物を上手に販売するには人と人との繋がりが非常に大事なのだと力説していました。

また、金沢市農業協同組合の理事を6年務め、農協事業の発展と組合員の経営改善にも尽力。理事の活動を通し、市内各地の生産者とも繋がりがもてたことがとても有意義な経験だったそうです。

今回の受賞について、「地域の農家の方々、生産者の方々、農協の方々、皆様に支えてもらったことにより頂けた賞だと思います。感謝しかないです。」と笑顔で語る安田さん。冬の貴重な晴れ間にインタビューにお答えいただきありがとうございました。

（取材　広報編集委員　西村 健、五坊 隆一）

令和4年度の金沢市農林漁業功労賞の受賞者は、大杉英夫さん、中林宣洋さん、中村真一さん、橋田満さん、安田伸一さんの5名の方々でした。おめでとうございます。

金沢農業大学校修了生　粟森紘平さん

昨年11月22日、金沢農業大学校修了生（第10期生）で、就農7年目の粟森紘平さんを訪ねました。

粟森さんは、内灘町の農地約2haで、加賀野菜のさつまいも（五郎島金時）、金沢そだちのスイカ、ダイコンを栽培しています。実家は元々農家で、粟森さんが小学生の時に祖父の代で廃業したそうですが、大人になっても農業をしていた祖父への憧れが忘れられず、また、地域に関わり、地域へ貢献していきたいという強い思いから、脱サラし就農することを決意したとのことです。

就農に当たり、まず、地元の農家のもとでアルバイトをしながら野菜の栽培方法を学び、その後、金沢農業大学校に入校。研修2年目のときに就農しました。研修中は、他の地域の人との繋がりができたことや、農薬の希釈倍率など基礎的なことをしっかり学ぶことができて良かったと話していました。

普段は、粟森さんと従業員の2人で作業し、繁忙期にはアルバイトを雇っていますが、休む暇もなく忙しいとのことでした。特にスイカを収穫する7月と、さつまいもとダイコンの収穫が重なる10月はとても忙しく、ダイコンは早朝から収穫を開始するとのこと。取材当日は収穫作業が終わり、さつまいもの出荷調整作業の真っ最中でした。そんな多忙な日々を送る粟森さんですが、野菜が育っていく過程を見たり、お客さんが喜ぶ姿を見ると、農業をしていて良かったと思うそうです。

また、地元のこども園を対象にさつまいもの収穫体験を行うなど、地域への貢献にも力を入れています。収穫体験については、「儲からなくても良い。子どもたちが大きくなった時に、農業に興味を持ってくれたらいいな」と笑顔で語っていました。

30代と若くて力みなぎる粟森さんの今後のご活躍を期待しています。

（取材　広報編集委員　河井 剛、奥村 明義）

粟森　紘平さん

ノマジョ・カナザワ マルシェ出店

金澤表参道（横安江町商店街）で行われるクラフトマーケット「よこっちょポッケまーと」に昨年11月20日、金沢農女が出店しました。金沢農女（愛称：ノマジョ・カナザワ）とは、女性ならではの視点や感性を活かし活動する金沢市内の農業女子グループです。

金沢農女は、昨年、新県立図書館で開催された「いしかわビブリオマルシェ」など、計7回のマルシェに出店。この「よこっちょポッケまーと」も、4月、9月に続き3回目の出店となります。「実りの秋」ということもあり、秋の出品数が最も豊富で、約60品目の野菜や加工品が所狭しと並んでいました。

商品の袋詰めや値段設定などはメンバーが各自で行い、農作業もあるため、売り子は交代制です。当日は、開店の2時間前に集合し準備を進めていました。

初めてマルシェに参加したという、加賀野菜のさつまいも生産者の中村さん。この日、中村さんは「五郎島金時」とプリントされたTシャツやジャンパー、マスクを着用し、店頭では、生の五郎島金時の他、焼き芋も販売していました。これまでは生産部会の販売促進活動として量販店で試食販売を行っていましたが、最近はコロナ禍で活動を自粛していたため、今回、3年ぶりの直売活動を楽しんでいる様子でした。

昨今、地元の新鮮な野菜を朝市で販売している地区も増えてきましたが、市街地の路上での販売は珍しく、買い物客や観光客なども多く見られました。あいにくの雨の中、焼き芋の甘く香ばしい香りにつられ、お店はたくさんのお客さんで賑わっていました。金沢農女の皆さん、これからも頑張ってください。応援しています。

（取材　広報編集委員　伴 美代子）

よこっちょポッケまーと

令和4年度農地利用状況調査

農業委員会では、農地法第30条に基づき、農地利用の確認、遊休農地の実態把握と発生防止・解消、違反転用の発生防止・早期発見を目的に、毎年、農地利用状況調査（農地パトロール）を実施しています。

今年度は、10月から11月にかけて、農業委員・農地利用最適化推進委員が中心となり重点的に調査を行いました。

農地利用状況調査の結果、遊休農地と判断されたものについては、所有者に今後の利用意向を確認するなど、農地が適正かつ効率的に利用されるよう働きかけています。

農地利用状況調査（農地パトロール）

～老後の安心に～ 農業者年金に加入しませんか！

◎少子高齢化時代に強い年金です

自分の年金原資を自分で積み立てる積立方式の確定拠出型で、加入者や受給者の数に影響されにくい年金です。

◎農業に従事する方は加入できます

【加入資格】①年間60日以上農業に従事
②20歳以上60歳未満の方で国民年金第一号被保険者
③60歳以上65歳未満の方で国民年金任意加入者

◎税制面での優遇措置があります

・支払った保険料は、全額（年額12万円～80万4千円）が社会保険料控除（所得控除）の対象となり、所得税、住民税の節税につながります。
・年金資産の運用益は非課税です。
・将来受け取る農業者年金は公的年金等控除の対象となり、65歳以上の方であれば、公的年金等の合計額が110万円までは全額非課税となります。

お問い合わせは、
農業委員会事務局　TEL 220-2223
JA金沢市本店　TEL 237-3930
JA金沢中央本店　TEL 291-5942
年金担当まで

金沢市内における農地に関する情報

金沢市内における令和4年1月1日から12月31日までの農地の賃借料については、次のとおりです。なお、この情報は、賃貸借契約を締結する場合の参考であり、実際に賃借料を定めるときは、当事者間で決定願います。

金沢市内における農地の賃借料

農地区分（登記地目）	地域別区分	最低価格（円/10 a）	最高価格（円/10 a）	平均価格（円/10 a）	データ数（件）
田	平坦地域	2,500	12,000	9,219	71
	中山間地域	5,000	8,000	6,989	19
畑	砂丘地域	21,000	24,000	23,571	21
	河北潟地域	8,576	20,000	13,780	16

※地域別平均価格から著しい差異があるものは除いています

編集後記

令和2年7月から、広報編集委員として様々な取材をさせていただきましたが、今年で任期が終了となります。

「農業かなざわ」の発行にあたり、大変多くの方々にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

今後とも「農業かなざわ」をどうぞよろしくお願い申し上げます。

（広報編集委員一同）

広報編集委員
後列：左から　河井委員、西村委員、菊知委員、松平委員、五坊委員
前列：左から　奥村委員、藤田委員長、伴副委員長、米光委員